

20120208日本危機管理学総研_議事録

日 時：2012年2月8日（土）19:00－20:50

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「大規模災害発生時における情報コミュニケーション」

発表者：永原篤氏（株式会社オープンソース・ワークショップ代表取締役）

<http://opensource-workshop.jp/>

参加者：参加者 15人（発表者除く）

（経済アナリスト、NPO法人理事長、財務コンサルタント、会社経営者、会社員、
新聞社記者、ライター、地方議員、公務員、行政書士・司法書士など）

理事長から開会挨拶、戦略研／危機研の趣旨。→資料「戦略研概要」。



発表：

1. 永原さんの目線

- ・ホームページを作成する専門家からの目線ということになる
- ・ただし、ホームページとはいっても、デザイン中心のきれいなものというよりは、情報を共有するためのホームページが専門
- ・そのため、インターネットでどのように情報共有できるか、問題はどこで、何が有効かなどを見やすい位置にいる

2. 進化途中の IT を使うということ

- ・激しく進化しているものをどう使いこなすのか
- ・進化途中を実感するために、阪神淡路大震災当時の IT について確認し、現在と比較を行う
- ・阪神淡路大震災の年、1995年に、Windows95 が発売された
- ・検索エンジンはなく、URL のロコミが普通だった。URL をメモして伝えていた
- ・プロバイダが少なく、インターネットに入るのには敷居が高かった
- ・2011年、インターネットへの敷居は低くなる
- ・検索エンジンの機能アップ。Twitter、Facebook などのソーシャルメディアが普及
- ・震災直後の利用のされ方の比較
 - 1995年、掲示板による情報発信。一方的な情報発信、情報受信
 - 2011年、Blog、Twitter による情報発信。つながりのある情報共有、双方向のやりとり
- ただし、現在、情報多過ぎといわれている
- ・情報発信に対する意識の比較
 - 1995年、匿名を望む雰囲気
 - 2011年、「自分」が特定されても良いという流れ（特に、10代、20代）
- ※ この変化は、IT を震災時に使用するためには、非常に大切なことではないかと感じる

○小まとめ

- ・IT は今もまだ、毎年のようにトレンドが変わるほど進化中
- ・アプリケーションを一所懸命に作っても2年ぐらいで賞味期限切れ
- ・匿名から特定へ。使う側の人間の意識面でも進んでいます

- ・ IT 進化の落ち着きが見えない今、
当分、進化し続けるのではないかとすることを前提に、
どう利用するかを考えることが必要ではないでしょうか？

3. 課題

- ・ どのような課題があるのか、東日本大震災から見えてきた
- ・ 東日本大震災直後に使えたサービス（東京）

【連絡手段】

Twitter	○
携帯電話	×
携帯メール	△
固定電話	△
災害用伝言板（携帯）	△ 準備不足のため

【情報入手】

TV/ラジオ	○
--------	---

- ・ 東日本大震災直後の連絡事例（外出中）

Twitter だけは接続できた。Twitter でどこで地震が起きたのかを知る

20時ごろ、やっと携帯電話が通じる

○国内サービスの課題

- ・ Twitter など連絡手段が米国のサービスだった
- ・ 複数の海底ケーブルの切断などもあったよう。
米国のサービスを利用できたのは、運が良かったのかも知れない
⇒国内でのメジャーサービスの必要性
⇒インフラの冗長化の必要性

○インフラが切れた場合の課題

（下記は宮城県、岩手県などの事例。首都圏でも対策の参考になる）

PC&LAN 固定回線が被害、接続できず

PC&無線 無線基地局等が被害、接続できず

PC 全般 停電などで使用できず

携帯電話 移動局の範囲に行くことで通信可能。充電ができた場合もある

⇒インフラが切れた場合、IT は使えない

⇒インフラが復旧してからは、IT が様々な役立つ

○デバイス（通信端末）から見える課題

- ・大規模災害時の通信端末

⇒現時点では携帯電話が一番普及している？

⇒通信端末の特性に応じた、インフラ対策が必要？

○アクセス集中に対する課題

- ・2012年1月1日、Twitter、「あけおめツイート」でサービス停止

- ・秒間最高の7,000弱のツイートがあったよう

⇒一極集中のサービスの限界

○サービスの移り変わり

- ・進化中のITだからこそその課題

- ・どんどん出てくるメジャーサービスをどこまで追従するのか

○シンプルでなければ使いにくい

- ・シンプルでなければ、緊急時には使いにくい

- ・通常の営業目的のものは複雑になる傾向がある

- ・携帯電話会社の回線数がパンクしないように増やすことはできないのか

- ・せめて、携帯電話のメールやショートメールはパンクしないようにできないのか

○目的が違うものを使えるのか？

- ・営利目的のシステムは緊急時用に作られているわけではない

- ・緊急時のインフラ対策やアクセス数予測からシステムを用意しているわけではない

4. ITを使った実証実験の紹介

- ・長野県教育委員会が実施したもの

- ・実証実験イメージ

学校 Web サイトの訓練用安否確認情報にて、安否の返信をするように指示
生徒からの返信状況を確認したが、半分ぐらいしか返信がなかった

- ・実証実験から見える課題

登録情報が古い場合

情報を受け取った後の行動

メール受信拒否設定

- ・普段使っていないと、使えない

ITは進化し続けている。これに対し、使い続けられるサービスとは何か？

震災時のみのサービスは普段使わないため、慣れや気付きが難しくなる

5. 自衛のための IT ～どうすれば IT を有効活用できるのか～

- ・自衛のための IT/安否確認

つながりごとの IT 活用を話し合う

会社であれば、会社 Web やメーリングリストなど。複数必要

震災直後の安否確認、避難情報など

- ・自衛のための IT/情報入手

東日本大震災後、地域情報の収集をしたかった。Twitter で収集した。地域ハッシュタグを活用

⇒普段から使っていないと緊急時に使えない

- ・自衛のための IT/情報発信

安否確認後、現実的には仕事に対する情報発信がすぐに必要になる

○小まとめ

現状では、自衛のための IT の手段は皆同じではなく、

自分なりの調査の結果をもとにして、

それぞれで用意しなければいけない

6. 復旧・復興に向けて

- ・IT を使った取り組みの紹介

文科省 子どもの学び支援ポータルサイト

グーグル Crisis Response

sinsai.info (復興支援プラットフォーム)

Open Street Map (フリーの地図データ作成プロジェクト)

OSC (オープンソース・カンファレンス) チャリティセミナー

※永原さん及び関わっている団体での取り組み

学校への支援 (NPO 法人コモンズネット)

業界団体での支援準備 (OSS コンソーシアム)

半年間の売上金額5%を寄付 (PHP 技術者認定機構)

IT 業界の仕事の安定のために、新しい仕事の方法をセミナー (仲間とのボランティア団体)

以上